昭和大学江東豊洲病院だより

2016年7月号　　第２７号

◆巻頭言　こどもセンター長　水野　克己

2014年3月に昭和大学江東豊洲病院が開院して２年が経過しました。小児医療は予防接種が充実したこともあり、どの病院においても入院を必要とするお子さんは減少しております。そのなかで、当院のこどもセンターでは満床を超えることも散見されるようになりました。これも医師会の先生方のご支援の賜物と心より感謝申し上げます。

当院は、“女性とこどもにやさしい病院”というキャッチフレーズを掲げております。やさしい病院をめざしていますが、病院の機能を分けることを勧められており、かかりつけ医を兼ねるわけにはいきません。開院当初は”紹介状は？”、”選定療養費がかかりますが？”と聞かれて、戸惑われたお母さま方も多くいらっしゃいました。以前の豊洲クリニックでは、この地域の多くの子どもたちの予防接種・乳児健診を行い、かかりつけ医としての役割を果たしていました。しかし、当院では開院当初よりこの地域の急性期医療を担う医療機関として、新生児医療や専門的な診断・治療を行えるように外来を整備しております。現在では、たくさんのご家族に”近くで高度な医療を受けることができるようになった”と喜んでいただいております。また、これまで遠方の専門医療機関に通わなければならなかったお子さんたちも当院を紹介していただけるようになり、近くで専門的な医療が受けられるようになったという声もいただいております。

もちろん、かかりつけ医としての役割は果たせなくなりましたので、そのギャップをどう埋めるかはこれからも解決しなければならない課題と考えております。わたしたちは医師会の先生方と連携をとって、地域で子育て中のご家族に安心して子育てができる小児医療を提供する責務をおっています。ご両親に子育てのお話しをさせていただく機会も増えてまいりました。このような社会的な活動も含めて、子どもの数が増えるこの地域で安心して子育てができる医療を提供できるようにこれからもスタッフ一同頑張ります。これからも昭和大学江東豊洲病院こどもセンターをよろしくお願いいたします。

昭和大学江東豊洲病院

第２７号のトピックス

- 巻頭言　こどもセンター長　小児内科　水野教授
- 夏の肌トラブル
- 新人紹介

◆夏の肌トラブル　皮膚科　永田　茂樹

今回は夏の皮膚トラブルということで夏にみられる虫刺性皮膚障害を取り上げます。

［はじめに］虫刺されと一口に言っても（1）ハチやツツガムシなど生命に危険を及ぼすものや（2）病原菌を媒介するもの、（3）単に痛み、かゆみを引き起こす不快なものに分けられます。私は皮膚科医なので皮膚疾患を中心に、虫刺されの代表的なものについてお話します。

1）マダニ刺症：マダニは野生動物に寄生していますがときに人にも寄生して吸血し、マダニ刺症を引き起こします。ダニの唾液物質によるアレルギー性皮膚炎のみならず、発疹、発熱、関節痛、筋肉痛、リンパ節腫脹などを伴うことがあるライム病、重症熱性血小板減少症候群(SFTS)、日本紅斑熱といった感染症を媒介します。また、マダニアレルギーでは同一成分を有する牛肉など（獣肉アレルギー）やがん治療に使用する抗ヒト上皮成長因子受容体モノクローナル抗体のひとつでもで蕁麻疹/アナフィラキシー型反応を示すこともあり、注意が必要です。

a 対処法と治療：虫体を無理に引っ張ると首からむしれて頭が皮内に残るばかりではなく、菌が体内に注入される危険が高まるので皮膚科専門医で局所麻酔下に虫体ともども麻痺させてから刺し口周囲の皮膚ごと切除するのが望ましいです。摘除後皮疹が出てから内服をしても遅くはありませんが摘出後念のためテトラサイクリン系の抗生剤を約14日内服するとライム病や日本紅斑熱を予防できることもあるので、ダニに刺されたらそのままにして、速やかに近くの皮膚科を受診してください。

b 予　防　法　：元来、野ねずみなどの野生動物に吸着していたものが、偶発的に人に着します。山林などの野ねずみや野鳥の生活圏に入る時は肌を露出させず、虫の侵入防ぐため袖口や裾を隙間がないように留め、襟巻きをし、むやみに地面に腰を下ろさないこと、屋内に戻ったらすぐに着替え洗濯をすることが大切です。

図１　タカサゴキララマダニ：吸血前

図２　タカサゴキララマダニ：吸血後

図３　タカサゴキララマダニ：吸血後虫体

2)蚊　刺　症　：日本では吸血し、蚊刺症を引き起こす代表はシマカ、イエカ、ヌカカです。一般に蚊に刺されると刺された部位が蕁麻疹のように台地状に盛り上がる膨疹を形成して、非常にかゆくなります。子供は特に反応が強く水ぶくれになることもあります。掻き壊すとびひの原因にもなります。しかし、ヌカカは体長が2mm程度で名前の通り糠が舞っているように見える小さな蚊なので刺されても発疹は小さなかゆくて、赤いポツポツぐらいで済んでしまいます。発疹、発熱、頭痛（一般的に目の奥の痛み）、筋肉痛、関節痛がみられるデング熱は主にネッタイシマカが媒介しますが日本に生息するヤブカ特にヒトスジシマカも媒介することが可能です。また、デング熱に似た症状を呈するジカ熱はヤブカ属が媒介します。

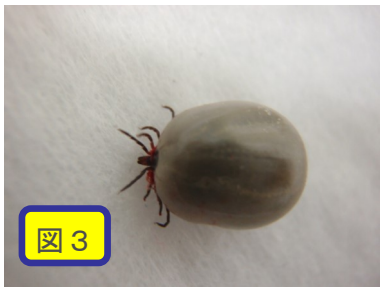
図３

3）ブ ユ 刺 症　：2～5mmぐらいのハエに似た昆虫で夏場の水辺を好んで生息するため川や湖に近い山野やキャンプ場で被害に遭うことが多いです。刺されたところは赤く腫れあがり、中心に水疱を作ることもあります。かゆくて掻くとシコリになり数ヶ月続くこともあります。人により症状が異なるのはブユ抗原というかゆみを起こす物質により遅延型アレルギー反応が人によっては起こり、症状に差が出るといわれています。

a 予　防　法　：2. 3.とも決定的なものはありませんが、長袖、長ズボンでなるべく皮膚を露出しない、虫よけ剤の塗布、虫よけの携行である程度蚊による血は防げるようです。なるべく、蚊やブユの好む湿ったところや蚊柱が立つところ（ヌカカが多い）への夏季の侵入は避けたいところです。

b 治　　療：虫刺性アレルギー皮膚炎、虫刺性皮膚炎の治療はすべて抗ヒスタミン軟膏とステロイド軟膏の局所外用で済む場合が多く、必要に応じて抗ヒスタミン剤かステロイド剤の内服を行います。ダニのように摘除が必要な場合もあります。皮膚症状が軽快しないときは出来るだけ早く皮膚科にかかってください。治療を怠ったり、遅れたりするとかきこわし、細菌感染を起こしとびひになったり、重症化し、蜂窩織炎やブドウ球菌熱傷様皮膚症候群（SSSS）なる危険が増します。また、アレルギー反応が増長されて虫に刺されてもいないのに同様の発疹が全身に広がり、何年も繰り返す難治性の慢性痒疹や結節性痒疹に移行することもあるので要注意です。感染症を媒介することもありますので虫に刺さた後や山野に入った後、刺し口と考えられるところがあり、全身倦怠、発熱、発疹がみられたら、内科や感染症科を受診してください.

◆新人紹介　放射線室・リハビリテーション室・薬局

出身は大阪です。笑顔を心がけで業務に勤めます。精一杯頑張りますのでよろしくお願い致します。（放射線室 角田 勇斗）

出身は東京です。謙虚な気持ちと感謝の気持ちを忘れずに日々努力していきたいと思いますのでご指導の程宜しくお願い致します。
（放射線室 立石 真織）

常に感謝の気持ちを忘れずに、患者さんの生活が過ごしやすくなるように理学療法を提供していきます。（リハビリテーション室 安田 琢朗）

患者さんの話をよく聞き、医療スタッフの皆様と情報共有して治療に貢献したいと思っています。至らない点もあると思いますが頑張りますのでよろしくお願いします。最近、入籍しまして勝山から磯崎に氏名が変わりました。よろしくお願いします。（薬局 磯崎 遥）

大学を卒業後、薬剤師レジデントとして昭和大学病院、東病院、北部病院で研修を終え、４月より江東豊洲病院で働いています。精進して参りますのでどうぞよろしくお願い致します。（薬局 安田 礼美）

編集後記　大塚　直樹

なかなか梅雨入りせず、やっと梅雨入りをしたと思ったら雨がなかなか降らないうえに気温は乱高下。ダムの貯水率も記録的に低く取水制限の声も聞こえてきます。そんな天候不順のためか、西日本を中心にヘルパンギーナの大流行の兆しがあるそうです。毎日忙しい中、どうしても不摂生になりがちですが、こんな時こそ美味しいものを食べて、きちんと休息をとって、楽しいことをして、体と心の免疫力をアップさせたいものです。(6/15記)

昭和大学
SHOWA UNIVERSITY

昭和大学江東豊洲病院　http://www.showa-u.ac.jp/SHKT/
〒135-8577 東京都江東区豊洲5－1－38
TEL03－6204－6000（代表）
発行責任者：新井一成　編集責任者：長谷川真

Showa University KotoToyosu Hospital